

## 第1分科会：地域住民のニーズと公共図書館サービス

助言者：手塚英男（長野県図書館協会副会長）

司会者：大滝一郎（上田市立上田図書館）

発表者：伊東直登（塩尻市立図書館）・平賀研也（伊那市立伊那図書館）

### 1 発表の概要

#### (1) 塩尻市立図書館 ～塩尻市立図書館の試み～

- ・ 市民の1割程度のコアな利用者のための図書館ではなく、より多くの市民が利用する、生活の支援を行う課題解決型図書館をつくることを目標としている。
- ・ 課題解決力には、「人」、「資料」と「仕掛け」が必要で、職員の意識改革、資料あつての図書館であり、ワンストップで図書に会える工夫も必要である。
- ・ 図書館だけが頑張るのではなく、地元の書店組合などとも協働して事業を行う。同じ「講演」であっても本と読者をつなごうとする主旨（テーマ）がある。
- ・ 人とは職員と人的ネットワークであり、意識改革には井の中の蛙という自覚と反省がある。

#### (2) 伊那市立伊那図書館 ～伊那谷の“屋根のない博物館”の“屋根のある広場”へ～

- ・ 博物館だけではなく、「図書館」も屋根のある広場を目指している。「情報と情報」、「情報と人」、「人と人」をつなぎなおす場をデザインするのが図書館である。
- ・ 書籍の担う情報は、量・質ともに相対的に低下しており、インターネットの情報量は圧倒的で、デジタル情報はいつでも、どこでも入手できる。この中で地域の公共図書館の強みは、地域にはユニークな情報資産があり、地域に学ぶ場にあること、図書館は「世界」への入口になり得ることである。
- ・ 高遠のデジタル古地図を携帯型情報端末で俯瞰しながら現地を歩く「高遠ぶらりプロジェクト」を、誰でも参加できる制作委員会で進めているが、小学校や高校にも波及している。知る楽しみの場をデザインするのが図書館と考える。
- ・ 図書館は地域情報のハブであり、ポータルである。地域図書館は今実はすごく面白いポジションである。

### 2 討議の内容

- (1) 実用書の選択については、重点収集の「ワイン」では全般に渡って収集しており、分類ごとに担当者がいる。これまで収集した図書の穴埋め的な収集をしている。また、隣の松本市には蔵書が多いので、そこで収集された図書は少しにすることもある。
- (2) 「高遠ぶらり」では、二次活用を進めるには図書館職員だけでは無理で、図書館はプロデュースだけ、つなぐのが図書館と考えている。図書館で持続するには図書館の経営のあり方を変える必要がある。
- (3) 無料貸本屋でもいいかということには、塩尻ではまずいと考えており、静かな環境を良しとするコアな利用者しか来ない図書館になってしまう。地元書店のこともある。伊那では市民がそれを望むのであればそれでも良いと考える。自分も図書館で調べ物はするが、本は借りない主義である。貸出冊数、利用者数の動向は気にしない。

### 3 まとめ（助言者の指導を含む。）

- (1) 情報機器をどう取り込むかとともに、図書館とは何なのかを考える必要がある。
- (2) 次のような疑問（図書館七不思議）について考えてほしい。

「①図書館には利用者はいても地域住民はいない」「②カウンターの内側にいると地域は見えない」「③なぜ図書館に賑わいがいないのか」「④なぜ図書館に職員集団がないのか」「⑤なぜ職員に問題意識が希薄なのか」「⑥なぜ図書館は住民運動に背を向けるのか」「⑦なぜ図書館はタコ壺の中にいるのか」

## 第二分科会 「図書館職員の資質向上について」

助言者：宮下明彦（長野県図書館協会常務理事）

司会者：小林修二（千曲市立更埴図書館長）

発表者：棟田聖子（松川村図書館長）

柳沢孝夫（県立長野図書館・情報係長）

### 1. 発表の概要：

①<松川村図書館> ー図書館司書の資質向上についてー

・初任の中学校図書館司書の時期は経験のない所からのスタートで、区域内・市外を含め勉強会・講習会・講演会などスキルアップの機会に数多く参加してきた。

・退職後の子育て時代も子どもと共に様々な催しに参加するなか、新たな技術の習得の機会も得られた。この時代に出会った「ミュージックパネル」（パネルシアター＋歌）は大きな財産となっている。子どもと一緒に近隣の絵本美術館の多くの絵本作家の講演にも参加。

・公民館司書として復帰後も勉強が必要で、東京子ども図書館の講演での「すばなし」は魅力的で「ミュージックパネル」と共に松川村図書館のメインの行事となっている。他にも「アニメーション」（子どもに楽しく読書に入ってもらい、考える力をつける）、「パスファインダー」（異なる方向から本の紹介をすることも。子どもの調べ力をつける）「レファレンス」（ツールの利用）なども学んだ。

・新たに館長という立場となったが、司書としての職務遂行の部分が多く、就任後も自身の研修に努めている。今後も出来る限り研修会、勉強会に参加し、資格も取りたい。

・「わかりません」、「できません」、「知りません」は司書の禁句。図書館はサービス業。

・他の図書館も訪問し、幅を広げる努力をする。

②<県立長野図書館> ー図書館職員の資質向上ー 県立長野図書館の取組み

・均一なサービス、職員が公平なサービスを提供するとの観点での話をする。

・個人の研修は種々の講習会参加にて行なっている。また参加後の伝達講習も行なっている。

・接客態度・服装に対し留意をする。挨拶の励行・服装の基準を設ける。

・情報を共有し、利用者に不信感をもたせない。クレマーに対しては同一の対応をとる。

・館内研修は機器利用も含め各種行なっている。接遇研修は毎年県のホスピタリティー研修を受け、伝達も行なう。職員のレフレッシュとなっている。

・カウンターは2時間毎の交代。情報共有のためレファレンス処理票を回覧している。トラブル、苦情も引継票にて行なっている。

・ミーティングの定期的実施（週1回） 苦情・要望・トラブルの対処策

・マニュアルの整備（前任からの引継が文書化されていない）、文書化して統一、周知させる。

### 2. 討議の概要

①・ぬいぐるみ図書館とは（質問）、ぬいぐるみ持参でお話会を行い、終了後ぬいぐるみを1日図書館であずかり、翌日「おすすめの本」と一緒に返す。写真も一緒に撮ったりする。

・「すばなし」の30のレパトリーとは（質問）、東京子ども図書館のテキストを参考にして。

・他のスタッフにたいする影響は。適時アドバイスをすると共に、自分の姿を見せる形で。

・当館では研修費用は個人負担である。将来は予算化したい。

②・嘱託3年の延長の検討は・技術の流出を回避（質問）。嘱託より正職を希望して行きたい。

・司書のキャリアパス／研修計画は（質問） 移動・交流はある。自己研修によるもの。

### 3. まとめ（助言者の指導を含む）

・職員のみでなく、館長自らも研修、図書館行事を行う姿は望ましい。

・松川村図書館でのイベントに対する取組みは活発。職員と地域の人達の連携・協働が求められている。（小布施図書館のように演出が上手。）

・レベルアップをどのように図るか。松川村の職員は恵まれている。協会もおこなっているの参加を。利用者の苦情・要望を大切に⇒サービスの向上につながる。

・指針に述べたように、図書館職員の接遇・技術、知識のレベルの向上に努めて欲しい。

助言者 高橋くに子（北信保健福祉事務所 保育専門相談員）

司会者 丸山明美（飯山市保育園連盟会長）

発表者 高橋眞由美（飯山市しろやま保育園）

## 1 発表の概要

しろやま保育園 ～絵本が身近に感じられる生活を願って～

市立図書館から貸し出された本250冊、県のふれあい環境整備の補助事業でふれあい文庫240冊、園で購入した本も多数あり、いつでも良い本が読書できる恵まれた環境にある。

- ①子どもたちには「読んでもらうことの楽しさを感じられるような絵本との出会い」ということで関係機関（市立図書館、小学校図書館、地域ボランティア）と連携し読み聞かせ会やお話再現遊びを楽しんでいく。
- ②保護者には「絵本の楽しさを伝える」ということで、貸し出し本を保護者の読んであげたい本を借りてもらったり、借りやすいように本のリストを作成する。絵本に関する情報ふれあい通信を発行したり、保護者が読んでもらう体験をしていく。
- ③保育士には絵本体験の充実と研修ということで飯山図書館の司書の方から実技講習を受ける。絵本環境の工夫（人的、物的、配置場所、読み聞かせをする時）をし、整えていく。

## 2 討議の概要

各地域の取り組みの様子や日ごろ感じていることを意見交換

- ・ほとんどの市町村で絵本の貸し出しは行っている。
- ・学校では朝時間を決めボランティアの方に読み聞かせをしてもらっている。校長先生が校長講話で読み聞かせをしてくれているところもあるが、とても好評だ。
- ・図書館司書の方が毎日読み聞かせをしているが聞く力の差を感じる。保育園からの読み聞かせが大切、保育園小学校が連携していかないといけないと感じる。保育園から読み聞かせをしていると聞く力、集中力が身についている子が多い。
- ・科学と昔話が欠けがちなので、いろいろなジャンルの本を与えて欲しい。
- ・人気の本は、本の後ろのいつ発行でどのくらい増版されているのかを見るといい。
- ・いい本に巡り合うには、子どもの興味を知っていないといけない。
- ・子供たちが初めて見る芸術品なので、絵・文章ともに優れたものを与えていきたい。同じ本でも絵でだいぶ印象が違ってくるので、考えて選びたい。
- ・昔からの物語は言葉の良さ柔らかさがあるので、意識して与えるようにしている。
- ・隙間を埋めるための読書でなく、絵本をメインにした時間をつくっていても良い。
- ・絵本のストーリーの再現遊びはイメージの共有化ができ、子供たちもとても喜ぶものなので日々の保育の中に取り入れている。

## 3 まとめ（助言者の指導）

- ・前は図書館に鍵がかかっていたり、予算がなく良い本も入れられなかったり大変だったが、今は質の高い図書館大会、充実したものになっていることに嬉しさを感じる。
- ・子どもにとって読書・読み聞かせの良さの科学的な根拠、脳のどの部分が働いているのか、前頭前野が活発に働いていたのは読み手のほうだった。（感情・情動の部分が活発になる）
- ・生まれてから5歳までに安心安全の基盤ができる。読み聞かせは愛着と成長発達にとっても大きく関わっている。赤ちゃんは自分の好きな人が本をめくっている、大好きな声、気持ちがいいそれが重なって本を読むのが好きになり、心の安定も生まれる。
- ・地域の機関を巻き込んでの取り組み、つながりが大切。
- ・家庭で読書をするのを働きかけ、生活に根付いた読書になることが大切。

## 第4分科会

## 司書教諭の仕事

発表者（兼進行）：司書教諭委員会 野澤由理香（須坂市立日野小学校）  
山崎 久子（長野市立北部中学校）  
渡邊 佳代（飯山養護学校）  
北村かをり（飯田市立旭ヶ丘中学校）

### 1 発表の概要

授業の様子を紹介した後、演習として実際に参会者が児童生徒になって学習活動を行う形で分科会が進められた。

#### (1) 食べ物辞典を作ろう（光村図書小学校3年国語「食べ物のひみつを教えます」より）

- ①教科書に米などの材料が6つ挙げられている。その中から一つ選びそれがどんな工夫がされて、どんな食品に姿を変えているのか、例を挙げて説明する文を作る。
- ②学習活動は「調べることを決める。本を探してその中から調べたい事柄を選び出す。マッピングを使って書く材料を集める。文章にまとめる。」
- ③司書教諭として、他校や公共図書館から調べ学習用の本を借りて、一人一冊以上本が手渡せるよう準備する。授業で児童が利用した図鑑類の紹介  
(模擬授業で単元の流れを紹介) (3年生になったつもりで、調べ学習を体験する)

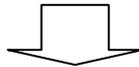


- ・使いやすい本はどれかな。
- ・資料の中に書かれた言葉を学習カードにどうやってまとめればいだろう。
- ・この集めた材料で説明文が書けるかな。

#### (2) 読解の理解を助けるために（光村図書中学校3年国語「月の起源を探る」より）

(月を題材にした科学分野の説明文「月の起源を知る」を理解するために、どのような工夫が考えられるか。)

- ①月の起源について述べられている3つの古典的仮説（親子説・兄弟説・他人説）について、美術科の先生から紹介された紙粘土を使って、実際に生徒たちが説明し合う。グループあるいはペア学習で実証させる授業をビデオを利用して紹介。



実際に参会者がペアになり、紙粘土を使って「3つの仮説」を説明する活動を行った。文章を読んで、理解したような気になっていたが、実際に自分で説明しようとするとなんか難しいということがわかった。紙粘土を使いながらペアやグループで話をする中で、いろいろな発見があり、理解が深まり、有効性が実感された。

- ②巨大衝突説のコンピューターシミュレーションのビデオ視聴
- ③理解を助けたり、発展的に学習できたりする参考文献の紹介。複本で用意し、グループごとに使うことで理解が深まる。

#### (3) 読み聞かせの実演 『おおきなおおきなきいろいひまわり』『ほしい』

### 2 まとめ

レポート発表を聞くだけでなく、児童生徒の学習活動を自分達が行うことで、問題点や有効性が見えてきた。またグループで気軽に問題点等話し合うことができた。

## 第5分科会 司書教諭と学校司書

司会者及び発表者 遠藤綾子（大町市立大町北小） 松木徳子（木曾町立日義小学校）  
深澤純子（長野市立加茂小学校） 大塩貴子（朝日村立朝日小学校）  
橋詰みづほ（松本市立寿小学校）

### 1 発表の概要

「学校図書館活用のための司書教諭と学校司書の連携」

#### ① <朝日村立朝日小学校> ～司書教諭の立場から～

- ・司書教諭という立場でも、担任をしていると時間が作れず司書の先生に頼るところが多い。図書館にもっと関わり、児童に多く活用してもらえるように願っている。司書の先生と密に仕事をしたいと願い、図書館に足を運ぶこと、話をする、情報をいただき相談をしていく。
- ・全校の活動の朝読書は、毎日10分間一人でお話の本を読む時間。週に1回読み聞かせを低学年担任は高学年クラスへ、高学年担任は低学年クラスへ行きおこない、好評。
- ・図書委員会を司書教諭・司書が担当。児童の指導や話し合い、委員による全校への啓蒙をしている。
- ・授業で調べ学習の指導を担当がする際、司書がTTとして授業に入る。ポブラディアを他校から借りてきて、一班に1セット用意し授業をした。
- ・読書旬間等行事で司書からアイデアをいただき、職員への提案は司書教諭がおこなう。

#### ② <松本市立寿小学校> ～学校司書の立場から～

- ・司書として、図書館事務という基本的な仕事をおろそかにしないようにしながら、「指導する立場にはないが役に立ちたい」という気持ちで連絡を密にしながら図書館運営に関わりたい。
- ・読書センターとして読みたい本に出会える図書館を目指している。児童は本を紹介しないと読まない。
- ・授業開始時に10分程度の読み聞かせやブックトークを行っている。発表の中で「くるま」をテーマにした本の紹介をしていただいた。これは2年は乗り物遠足、5年は自動車産業の見学に役立つ。
- ・読書への姿勢作りのために図書館利用のマナーを学ばせる。学校は、読書の習慣をつけられる場。
- ・学習・情報センターとして調べたいことまで行き着ける図書館に。
- ・年度当初、学年に応じた内容でオリエンテーションを行う。本の分類、辞典の引き方、目次索引。
- ・早めに発信できるように調べ学習に来たときに対応できるよう資料・本を用意しておく。

### 2 ワークショップ

- ・一人一冊ずつの本「松本盆地の生物」を用意していただき、もくじ、索引を使って調べる演習を行った。プリントに沿って、問題文中からキーワードを見つけ生物について調べ、記入した。

### 3 グループ討議後の発表の概要（3グループに分かれ討議し、話し合った内容を発表した）

- A：読書数を増加させるには、先生が読んでいる本をきっかけに広まる。「私のおすすめ本」用紙を本に挟んで返す。本を各学年毎にシールで分別して対象をわかりやすくする。授業時間に読む本について、9や2分類の本を読んで欲しい。今日のねらいは何か、共有すると充実する。
- B：百科事典の扱いについて、担任や学校司書がオリエンテーションで教えている。司書のフルタイム勤務はありがたい。読書旬間の計画を立案して実施する。司書からすると、図書館教育と図書委員担当は同じ先生であるとやりやすい。読み聞かせについては、支援員がいて、司書が関われない場合がある。司書、司書教諭、学校司書の連携がとれていると力になる。
- C：読書を通年通して行うために、掃除の後に10分の時間を設ける日課の工夫をしている。朝読書は週2～3回で他の活動が入ってきている学校が多い。司書から先生方へ「こういう資料がある」と学習の単元毎に呼びかけをする。年間計画を作り、教科書を見て必要な本を揃える。主に国語、社会、理科に関連する本を揃える。図書館便りは、児童用と職員用と出している。担任は素人なので、司書に頼ること多い。司書が「ここはまかせてください」と言っている。

### 4 まとめ

- ・実践発表やグループ討議での情報交換で、それぞれが心におちたものがあった。司書教諭として任命されれば何かやらなければならないと思い、司書は先生のお手伝いしたいという気持ちがある。司書、司書教諭、図書館教育係が互いに相談し連携していくことで図書館活用が一層図られる。

## 第6分科会 学校司書の仕事

司会者：望月信明（安曇野市立明科中学校）

発表者：林 貴子（辰野町立辰野高等学校）

澤田知穂（駒ヶ根市立東中学校）

青木美智子（山ノ内町立山ノ内中学校）

大日野亜希子（千曲市立治田小学校）

### 1 発表の概要

#### ① 学習・情報センターとして学校図書館にできること『授業支援準備シート』を使って司書ができることを考えよう！〈辰野町立辰野高等学校〉

- ・今は、「課題を見だし解決する力」（探求型学習）など、「生きる力」の育成が必要とされる背景がある。そこで問われる図書館の役割とは。身近なことでは、学校の先生の中には図書館が授業支援をすることを知らない先生も多く図書館を使ってもらえない学校もある。
- ・そこで『授業支援準備シート』（学校図書館問題研究会長野支部：作成）を使ってみてはどうでしょうか。内容は、①4月当初にすること 例）『職員用の図書館利用案内』を作成し配布するなど ②日常的にすること 例）日頃から先生たちと信頼関係を築いておくなど ③先生より依頼を受けてから授業が始まるまでにすること 例）担当の先生との打ち合わせ どんな力をつけさせておきたいかなど・・・。
- ・『学校図書館講座』を出前します！地域での司書の研修会や有志での勉強会にぜひご利用ください。お問い合わせは、辰野高校 TEL0266-41-5986 FAX44-1001まで

#### ② 学校図書館を子どもたちに利用してもらうために 明るく利用しやすい図書館を目指して～中学校司書3年間の実践〈駒ヶ根市立東中学校〉

- ・図書館環境の見直し 『手作りブックスタンド』・・・庁務員さんに作っていただき低段書架の上に設置した。たくさんの本を面出しできるようになり、生徒もよく手に取ってしてくれた。『生徒手作りの壁装飾&毎月の季節の展示』・・・生徒に人気のあるキャラクターを切り絵にし、壁一面に貼ったら、「図書館が明るくなった」「かわいい！」など生徒に好評だった。また、切り絵で毎月季節の装飾づくりを行っている。
- ・本の紹介企画 『POP作成』・・・自分のお気に入りの本を人に紹介し展示。仲間の読んでいる本を知り、自分の読書の幅が広がっていく。『私の好きなことば』・・・本より自分の好きなことばを抜き出し紹介。本は自分を支える言葉との出会いの場であり、友だちの好きな言葉をみて読んでみたいと思ったりというように、あたらしい本との出会いの場になった。

#### ③「学校図書館に関するアンケート」まとめ 〈山ノ内町立山ノ内中学校〉

- ・『子どもたちが図書館を利用したくなるためにどのようなことをしているか』では、「くつろぎスペース（ソファ・畳）など居心地の良い空間づくり」、「図書館内外の雰囲気明るくする」、「装飾（季節・イベント）の工夫」、「絵本のキャラクター人形などを置く」など、暖かさや癒しを求めている。
- ・『学校図書館に関して話し合いたいこと・知りたいこと』では、「選書の仕方・基準・リクエストの取り方、本の取り扱い（まんが・ライトノベルなど）」「調べ学習の実践例・司書の関わり方、調べ学習について担任先生とどんなやりとりをしているか」など、疑問も多く、これからの課題となっている。

#### ④「③のアンケート」より「読み聞かせおすすめ絵本リスト」〈千曲市立治田小学校〉

- ・書名（アイウエオ順）、著者、発行所、対象年齢に項目が分かれ、281冊を紹介し、充実している。
- ・調べ学習で使える資料リストもあり、小学校編・中学校編に分かれ扱いやすくなっている。

### 2 討議の概要（6グループに分かれ約30分、『不明本が多い。本の購入費が少ない。』などの普段の悩みを気軽に話し合った。しかし、時間がなくなってしまい、各グループの発表はできなかった）

### 3 まとめ

- ・情報機能として教育活動を支えている学校図書館。もっともっと活用してほしい。
- ・普段、孤独になりがちな司書業務。発表から、できることをチャレンジし頑張っていきたい。